



TITLE:

傾斜地果樹園の開園費および育成
費に関する実証的研究(
Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

菊池, 和雄

CITATION:

菊池, 和雄. 傾斜地果樹園の開園費および育成費に関する実証的研究. 京都大学, 1968, 農学博士

ISSUE DATE:

1968-07-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/212918>

RIGHT:

【278】

氏 名	菊 池 和 雄 きく ち かず お
学 位 の 種 類	農 学 博 士
学 位 記 番 号	論 農 博 第 204 号
学位授与の日付	昭 和 43 年 7 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	傾斜地果樹園の開園費および育成費に関する実証的研究

論文調査委員 (主 査) 教 授 柏 祐 賢 教 授 神 崎 博 愛 教 授 小 林 章

論 文 内 容 の 要 旨

農業の構造改善が進み、山野を開き、果樹園を開設するということが、最近、急速に進行してきている。もちろん、果樹園を開設する場合には、その収益性についての将来的な見通しが立たなくてはならない。しかるに開園費や果樹の育成費は土地条件などによって全く区々であり、新果樹園の開設計画は容易に立て難い。本論文は、異なる土地条件などの下における開園費および育成費を調査研究し、果樹園開設の計画基準を得ることを目標としてなされた研究成果をとりまとめたものである。

論者は、とくにミカンについて代表的な産地 141 地区を選び、それらの地区でミカン園の開園費の詳細な調査を行なった。しかしてその結果を傾斜度、開園のしかたなどを主な基準として 16 の類型に区別して研究した。その結果多くのことが明らかになった。まず沿岸部ミカン園の開園費は、普通工事の場合、人力開園では 10 アール当たり 31,000 円～42,000 円、機械開園では 33,000 円～52,000 円である。また開園費は、傾斜度が大きくなるにしたがって機械開園では大きくなり、人力開園では逆に小さくなる。開園費中における人力費の割合は、人力開園では平均 84 パーセント、機械開園では 22 パーセントである。なお排水、農道、病虫害防除などのための施設投下資本費用を加えると普通開園費の 3 ～ 4 倍となる。

つぎに育成費については、傾斜度、栽植密度、品種などを主な基準として 9 類型に区分して研究した。その研究結果によると、ミカンの育成年数は 3 ～ 8 年、育成価は 156,000 円 ～ 274,000 円である。しかして育成費に対しては、傾斜度が強く影響している。一般に傾斜が緩いほど早期収穫が可能となり、育成期間が短くなる。また一般に早生種は、中、晩生種よりも、また計画密植式は粗植式よりも投下労働量が多い。さらに緩傾斜園ほど育成のための必要労働量が多い。

また諸類型の園の育成費の平均では、物財費は 39 パーセント、労働費は 27 パーセント、資本利子は 33 パーセントである。物財費の占める割合は、緩傾斜園においては急傾斜園におけるよりも大きい。計画密植園においては、地価高のため土地資本利子の比重が労働費のそれよりも大きい。夏柑の場合は、や

や異なり、物財費 30 パーセント、労働費 30 パーセント、資本利子（主に土地資本利子）39 パーセントであり、土地資本利子の比重が非常に大きくなる。これは夏柑の立地が比較的平地に近い緩傾斜地となるからである。

論文審査の結果の要旨

農業生産の選択的拡大の線にそって山野を開き、果樹園を開設することが盛んに行なわれている。ことにミカンでは年年約 1 万ヘクタールからの新植が行なわれている。しかるにその開園計画を行なうに当っては、開園費および育成費を予見しなくてはならないが、しかしそれは土地条件などによって全く区画であり、したがって開園計画は容易に立て難い。本論文は、このような事情にかんがみ、それぞれの地区に対応した開園費および育成費の基準を得ることを目標として行なった研究の成果をとりまとめたものである。

本論文は、代表的地区 141 地区を選び、それについて詳細な調査を行ない、類型別にその費用基準を明らかにした。その結果、実際に、ある特定地で果樹園を開設しようとする場合、こうして得られた類型別費用基準に照らして、その地の開園費および育成費、したがって必要な投下資本量を推定することができるようになった。

本論文は、さらに諸類型についてこれら費用および費用項目を比較研究することによって、その間に規則的な諸関係が存することを明らかにした。ことに傾斜度と開園および育成費との間に、さらに傾斜度と労働費、資本利子などとの間に、ある規則的な法則的關係が存することを明らかにした。

要するに、本論文は、種種異なった条件の下における果樹園開設の費用と果樹育成費の実態を明らかにし、さらに進んで山野開発による果樹園開設の経済性とその限界とを明確にすることを可能にしたものであって、土地利用学および農業経済学の進歩に寄与し、また實際界に貢献するところがきわめて大きい。

よって本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。